

令和８年度 第１回 津駅周辺道路空間再編検討委員会 議事要旨

１．日 時 令和８年８月２０日（木） １４：００～

２．場 所 アスト津 ４階 アストホール

３．委 員 別紙のとおり

４．議 事

- １） 設置要綱の改正について
- ２－１）津駅東口周辺 交通拠点の機能強化について（三重河川国道事務所）
- ２－２）歩道拡張案に向けた取組について（三重県）
- ２－３）津市の令和８年度事業について（津市）
- ３） 今後の進め方について
- ・その他事項

５．委員からの意見

- １）設置要綱の改正について
（主な意見）
 - ・特に意見なし

２－１）津駅東口周辺 交通拠点の機能強化について

（主な意見）

・駅前への限られた空間ではなく、周辺街区を含めた面的な整備、再編について検討を進めていただきたい。

⇒まずは、交通結節点として必要な面積を検討し、現況の面積に対する過不足状況を整理する。そのうえで、必要機能ごとにゾーニングしながら、整備内容の具体化を図っていく。

【事務局】

⇒駅周辺開発事業との調整および連携方針はいかが。

⇒まずは、駅東口の交通結節点整備の基盤整備を図りながら、周辺まちづくりにもしっかりと波及させていきたい。【事務局】

・全国的に、駅前空間としては人中心とすべきであるという考え方が基本になっているが、津駅の特長やニーズをとらえたうえで、限られた空間の中で、何を優先すべきなのか、適切に検討する必要がある。

⇒津駅としても、人中心の空間整備、賑わいの創出といった点について検討進めていきたい。なお、県道や東西自由通路など、周辺事業との連携も十分に考慮して交通結節点整備のあり方について、検討していきたい。【事務局】

⇒指針に基づいた必要規模はあくまで機能として必要な規模であることに留意すべきである。上位計画であるビジョンのコンセプトをとらえ、将来的な利用のあり方も十分にイメージしておく必要がある。

・タクシー乗降場についても、十分に利便性等を踏まえた計画とされたい。

⇒十分に留意し、検討する。【事務局】

2-2) 歩道拡張案に向けた取組について

(主な意見)

- ・県道が再編される一方で、接続される市道等への影響も考えられるが、どのように調整を進められるのか。
- ⇒市道沿線の地権者等との調整が特に重要と考えている。将来の再編イメージを明確にしたうえで、想定される影響を十分に検討したうえで、適切に調整を進めていく必要がある。

【事務局】

- ・マネジメント主体の掘り起こしにあたっては、やはり地域の方々を想定されているのか。これまでの社会実験も含め、地域の方々はどのように考えているのか。
- ⇒以前の社会実験では、事業者に対して県が大きく支援をしたことで、賑わいは創出された一方、駅周辺人口の取り合いとなったことで、元々立地している周辺飲食施設の収益が一時的に下がった実績がある。
- ⇒地域の飲食施設等と十分に連携するような計画とされたい。

- ・駅周辺以外から人を呼び込めるような工夫が必要である。また、将来的に民間活力を導入する前提で検討を進められるようだが、民間が参入するメリットが明確化されていないと感じる。まずは、行政が主体でマネジメントする必要があるのではないか。
- ⇒現在は、県道空間の様々な使い方の可能性を探っていくことが優先と考えている。そのうえで、民間参入の可能性やスキームについて検討していきたい。【事務局】

- ・賑わい創出に向けた社会実験の検討・調整の場としては、今回委員会が最後ということか。
- ⇒今年度の秋頃に予定している社会実験は、車線の絞り込みによる交通影響といった、あくまで道路の機能的な影響検証が主目的である。春頃に実施している実験では、賑わい創出といった使われ方の検証を目的とした実験を予定しており、そちらについては、次回の委員会（年度末予定）にて、意見を伺いたいと考えている。【事務局】

- ・持続的に賑わいを創出するには、どうすべきと考えているか。
- ⇒持続的な賑わい創出は重要な課題であると考えている。新たな視点を持って、一過性のイベント的な賑わい創出とならないよう道路再編のあり方や運営方法について、検討していきたい。【事務局】

- ・マネジメント主体は、おそらく募集するだけでは難しく、行政が見つけてこないと厳しい。現時点、見つかっていない状況であれば、まずは、持続的にマネジメント主体が経営できる仕組みづくりが重要である。
- ・持続的に運営していくうえでは、やはり新たな需要を呼び込む必要がある。津駅周辺は官公庁機能が集積しているため、サラリーマン世代の往来が多い。そういった層の滞留を促進できるような施設や空間整備を推進するのも1つの工夫になると思う。地域の特徴を踏まえ、需要に応じた空間整備が重要である。

- ・交流人口を増やすような取り組みが必要である。例えば、駅傍に位置する偕楽公園など、賑わい創出のポテンシャルを感じている。隠れた名所の活用など、地域資源を活用した空間整備が必要である。
- ⇒実際に、偕楽公園については、国補助金を活用したリニューアル整備を予定している。人が集まるような空間整備を進めていきたい。【事務局】

2-3) 津市の令和8年度事業について

- ・上部空間活用というのは、具体的にどのようなものか。

⇒国が主で推進しているバスタプロジェクトは、交通機能を主とした再編整備である。一方で、上部空間活用のフィールドは、空間価値が高いバスタ区域の上部空間としており、その空間の利活用について、民間活用意向の有無について、調査している。【事務局】

- ・パーキングチケットの廃止や適正利用については、周知が不足していると感じる。

⇒津市ホームページや、看板設置等で周知はしている。しかし、不適切な利用が確認されている現状を踏まえ、案内を強化していきたい。【事務局】

- ・津駅は、ポテンシャルを十分に示しながら、サウンディング調査を実施されたい。

⇒昨年度より、津駅周辺のポテンシャルは十分に示しながら、サウンディング調査を進めているところである。引き続き、その点に留意し、調査を進めていく。【事務局】

3) 今後の進め方について

(主な意見)

- ・津駅西口、東口、バスタと、個別バラバラな印象がある。駅全体の全体マネジメントはどの機関が担って進めていくのか。

⇒駅再編については、バスタプロジェクトありきで立ち上がった背景がある。バスタプロジェクトのねらいとして、賑わい・官民連携などのキーワードもあり、それに合わせて、駅周辺のまちづくり計画を検討している。ご指摘を十分に踏まえながら、引き続き事務局全体で進めていきたい。【事務局】

⇒基本的には、まちづくり全体としては、津市が主体となって推進すべきである。

以上